



国空用第597号

平成22年3月31日

(社) 日本航空機操縦士協会 専務理事 殿

国土交通省航空局管制保安部運用課長



飛行援助センター（FSC）広域対空援助業務の
低高度空域における通信覆域改善について（通知）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

標記につきましては、交通政策審議会等において、既存ストックの活用により、小型航空機の運航の安全性向上、利便性効率性の改善を図ることが求められ、その具体化に向けて調査検討を行ってきた結果、ユーザーニーズの高い低高度空域7エリアが特定され、うち瀬戸内エリアについては平成20年4月1日から運用中です。

今般、その他6エリア（別紙参照）について平成22年4月1日から運用開始することとしましたので、お知らせ致します。

貴会会員の皆様への周知をお願いします。

1. 概要

飛行援助センター（FSC）広域対空援助業務の低高度空域における通信覆域を改善します。具体的には、下表のとおり既設の送受信サイトを親局とし、地形により親局と通信できない低高度空域のうち、通信需要の高いエリアを対象として子局を設置することにより通信を可能とします。

これにより当該区域内を飛行する小型航空機は、低高度においても気象情報、運航情報等の提供サービスがより適時に受けられることとなる他、飛行計画の変更、緊急通信も可能となります。

2. 運用開始時期

平成22年4月1日午前0時（但し、瀬戸内子局については平成20年4月1日から運用中）

対象エリア	運用組織	親局（既設）	子局	子局設置場所		周波数	呼出符号	出力
福島北部	仙台FSC	上品山サイト	福島北部子局A	福島県二本松市NTT局	373511N 1402556E	135.8MHz	SENDAI INFORMATION	10W
			福島北部子局B	宮城県白石市NTT局	380018N 1403712E			
いわき	仙台FSC	上品山サイト	いわき子局	いわきORSRサイト	370643N 1404744E			
上信	東京FSC	熊谷サイト	上信子局	長野県小諸市NTT局	361934N 1382527E	135.75MHz	TOKYO INFORMATION	
長野	東京FSC	松本サイト	長野子局	長野県長野市NTT局	363636N 1381043E	134.85MHz		
名阪道	中部FSC	三河サイト	名阪道子局	信貴VOR/DMEサイト	343742N 1353944E	135.5MHz	CHUBU INFORMATION	
琵琶湖北部	中部FSC	小松サイト	琵琶湖北部子局	滋賀県長浜市NTT局	352251N 1361617E	135.05MHz		
瀬戸内	大阪FSC	三国山サイト	瀬戸内子局	高松VORTACサイト	341935N 1335712E	135.6MHz	OSAKA INFORMATION	

FSC広域対空送受信サイトの 通信覆域が改善されます

FSC広域対空送受信サイトと同じ周波数の子局を設置し低高度における通信覆域の改善を図ります

通信覆域が改善されるエリア

(平成22年4月1日午前0時から)

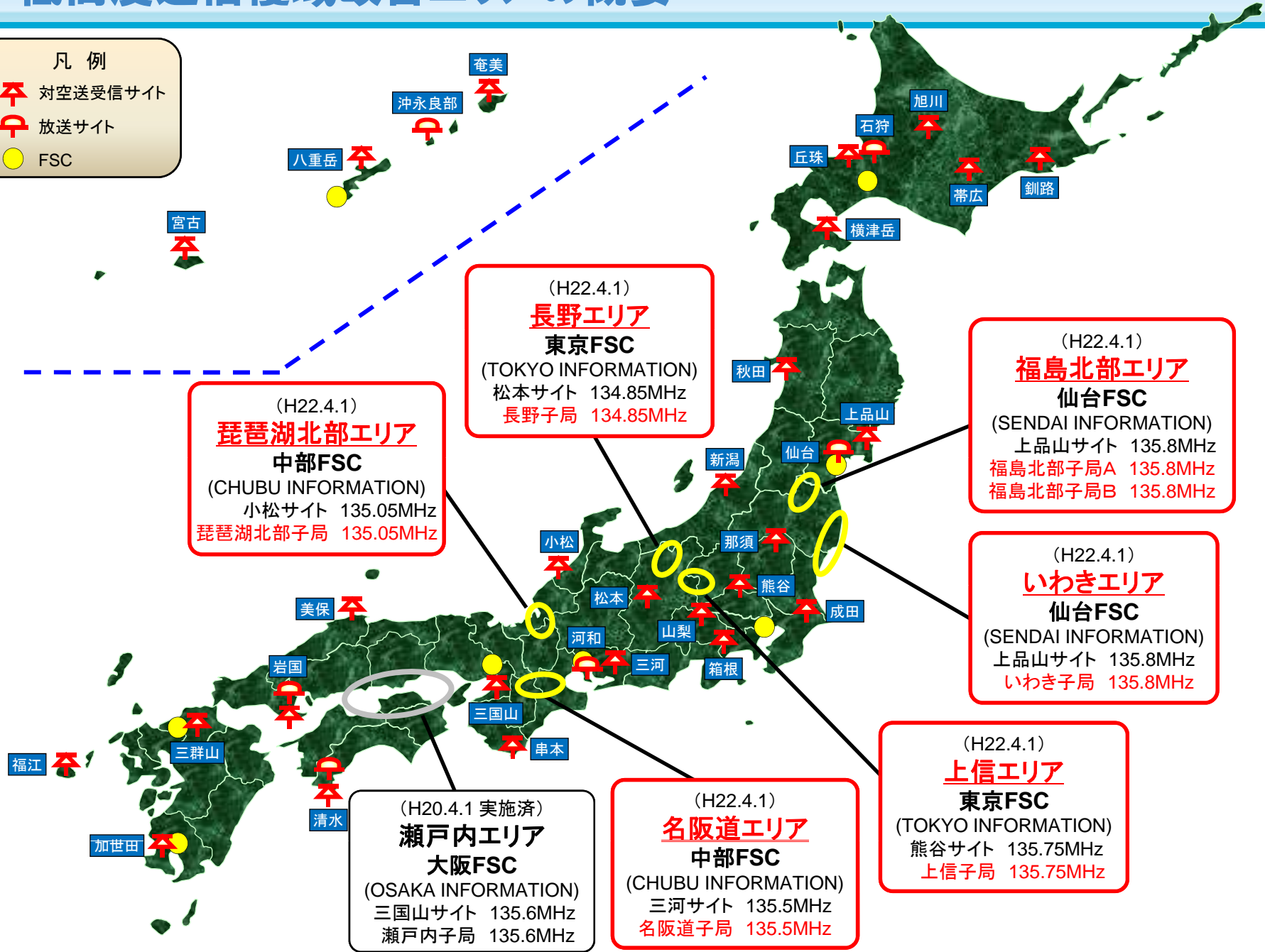
仙台FSC 福島北部エリア・いわきエリア

東京FSC 上信エリア・長野エリア

中部FSC 名阪道エリア・琵琶湖北部エリア

低高度通信覆域改善エリアの概要

- 凡例
- 対空送受信サイト
 - 放送サイト
 - FSC



福島北部・いわきエリアにおける通信覆域の改善



エリア	対空送受信サイト	子局	子局設置場所	周波数	呼出符号
福島北部	仙台FSC 上品山サイト	福島北部子局A	福島県二本松市NTT局	135.8MHz	SENDAI INFORMATION
		福島北部子局B	宮城県白石市NTT局		
いわき	仙台FSC 上品山サイト	いわき子局	いわきORSRサイト		

上信・長野エリアにおける通信覆域の改善



エリア	対空送受信サイト	子局	子局設置場所	周波数	呼出符号
上信	東京FSC 熊谷サイト	上信子局	長野県小諸市NTT局	135.75MHz	TOKYO INFORMATION
長野	東京FSC 松本サイト	長野子局	長野県長野市NTT局	134.85MHz	

名阪道・琵琶湖北部エリアにおける通信覆域の改善

- 凡例
- 対空送受信サイト
 - 子局
 - 覆域改善エリア



エリア	対空送受信サイト	子局	子局設置場所	周波数	呼出符号
名阪道	中部FSC 三河サイト	名阪道子局	信貴VOR/DMEサイト	135.5MHz	CHUBU INFORMATION
琵琶湖北部	中部FSC 小松サイト	琵琶湖北部子局	滋賀県長浜市NTT局	135.05MHz	

子局は広域対空送受信サイト(親局)の覆域の一部を補完するために整備されたものであり、親局と同じ周波数で運用することから、子局に障害が発生した場合は親局のみの運用となります。

親局は継続して運用していることから、子局の運用停止に係るノータムは発出されないこととなります。